

南三陸町 つながる 未来通信

No.4



このニュースレターは、
南三陸町の方々が様々な仮設住宅やまちで取り組まれている
元気の出る活動を紹介し、
これからの暮らしづくり・まちづくりに向けて、
皆さんがこのまちで大切にしていきたいと思っていることを
私たちに発見し、綴りたいと思っています。

発行元：NPO法人コレクティブハウジング社

移動図書館のペイント完成！



反対の面にはSLとたんぽぽが！
移動図書館が来たら、
ぜひご覧ください！

仮設住宅へさまざまな本を届けている移動図書館が、4/30ついにあたらしく生まれ
変わりました！図書館のみなさんとCHCのペイントチームへ感想と想いを伺いました。

すばらしい出来上がりに満足しています。

朝早くからの作業、お疲れさまでした。

松原公園にあったモアイ像とSLと、
たんぽぽに囲まれたバス。

イメージ以上のものになりました！

今、公園があったところには何もありません。

こんな風にみんなの親しんだ場所が再現されたバスで、
いろんな場所を走っていけたらと思います。

仮設のみなさんも「おー、すごい！」とおどろいて
楽しがっているようですよ。

南三陸町図書館
山内宏さんより



裏面に続く…

(川上英里)

復興てらこ屋が開催されました

今回は中越防災安全推進機構の稲垣文彦さん、石塚直樹さんをゲストに復興てらこ屋が開催されました。私たちも同席させていただいたので、その様子をご紹介します。（狩野三枝）

1.

南方町 仮設

4月18日（水）には南方仮設住宅集会所にて、これからの住まい・仕事・まちづくりについて参加者同士で語り合うワークショップ（真面目なことを気楽に話す場）が開催されました。4つのグループに分かれた話し合いの後、各グループでどんな意見が出たかを発表し合ったあと、中越の稲垣さんからこれからのまちづくりに関するアドバイスがありました。（アドバイスについては、2. 志津川中学校仮設集会所のところにまとめて掲載しています）

●仕事のこと

- ・これから土木の人は引っ張りダコ。
- ・仕事は選ばないならあるんだけどね。
- ・アジア協会が味噌工場を作った。
- ・3月で失業保険が切れる人が多い。
- ・この先のこと、みんなどう考えているのか知りたい。
- ・生活困窮の相談がよく来る。
- ・働く意欲が起きないという話も聞く。
- ・自分の城がないと、働く意欲は起きない。
- ・志津川でお店を建ててやりたい。
- ・自分は今までと違う仕事をしてみて、勉強になった。
- ・自分のやりがいになるような仕事を。
- ・子どもたちに役を継げないとまちが続かない。
- ・そういう仕事を作っていけたら。
- 人の健康に役立つ仕事の勉強をしている人もいる。
- ・工場とか、若い人が働く場ができるといい。
- ・水産は海があれば仕事があるが、陸では仕事がない。
- ・希望を持てるような仕事がほしい。

●登米と南三陸と…



●自然とのおりあい

- ・海で子どもたちが遊べるといい。
- ・怖いけど。
- 荒島の海水浴場がすばらしかった。
- ・わたしは波を見たくない。
- ・川で鮎をとりたい。
- ・海が見えないことで被害が大きか

●復興の進捗

- ・町の動きが見えてこない。
- ・道路をどこに持ってくるかも検討中。
- ・遺跡で、移転が遅れている。
- ・人を優先させてほしい。
- ・土地はあるけど、家を建てるお金がない。
- ・たまに冊子は来るけど、全体的に情報不足。

- ・帰りた。
- ・志津川には戻りたい、帰って仕事をしたいけど。
- ・南方から南三陸町まで仕事に通っている。
- ・いつまで続くのか
- ・5年も通えるのか？
- ・2/25に仮設の店舗がオープンしたが、疲れてきた。
- ・働く場所と住むところは近い方がいいな。
- ・どんな町になったら、南三陸町に帰りた？
- 住めば都。ここに住んでいるとここがよくなる。
- ここと同じくらいの便利さがあるといい。
- 福祉施設がほしい。高齢化していった不安になる。
- ・ショートステイとか。志津川にはなかった。
- 年をとった人が安心して住めるようであればいい。
- 障害者のための施設がほしい。
- ・登米にはいっぱいあるから便利。
- イオン、サンポートに行けばだいたい揃う。
- ・ホームックもあるといい。コメリとウジエがあればいい。
- みんなが志津川に戻ったら登米が困るんじゃない？
- ・売上が下がる。



●どんなまちにしたい？

- ・若い人に引き継げるような町にしたい。
- ・年の人が戻ってくるような町にしたい。
- ・（住民が）それぞれにそれぞれの役割を担う町ができれば。
- ・風通しのいい、情報の開かれた町にしたい。
- ・季節ごとにきれいな花を植えて、観光に活かしたい。
- ・実や花のなる木を植えて活かしたい。椿や菜の花、ひまわりなどから油をとって、実益も活かす。
- ・東山の椿復活！
- ・景観を守ることは、年配の人にとって大切なこと。
- ・食。海の幸を出す民宿を復活させてほしい。
- ・志津川だからこその食の店を復活させてほしい。
- ・ゆくゆくは魚釣りができる場所をつくりたい。
- ・三陸道のインター近くに家がないのがさみしい。
- ・小森から入谷にまちがひろがっていくといいな。
- ・男の人が集まれる場所があるといい！
→銭湯で裸の付き合いができるといい。
- ・公営住宅と病院のことを気にしている人が多い。

●交通の便

- ・年配の人の交通どうする？
- ・バスに乗って「仮設商店街で買い物をしたいから、ここで降ろして」と言っても降ろしてもらえない。仕方がないから、アリーナからタクシーで来たという人も。
- ・復興に時間がかかるなら、便利な登米に住んでいたほうがいい。



●まちづくりの進め方

自然と一体化したい町になるといい。そのためにも、今やっていることは服づくりで言えば採寸の段階。服に合わせるのではなく、わたしたちに合った服をつくるために、こういう作業を続けていきたい。

●住まいのごと（集団移転）

- ・高台に住みたい。
- ・一戸建てに住みたい。
- ・誰でもどこでも住む場所を選べるように。
- ・入谷は人口が減って来ていた。
人が移り住めば、入谷の復興にもなる。
- ・中には集団移転にのれないひともある。
その人のことを考えてほしい。
- ・集団移転の地区を限定しないで、
各地区の垣根を取り払って自由に選べるようにしたい。
- ・家を建てる力はあるけど、家族の仕事の都合で反対されて志津川に戻れないという人もいる。
- ・だんだん周囲の意見が変わってきている。
まとまりにくい。



コラム

石巻市で、県産材を使った復興住宅づくり



いち早く復興住宅が作られた石巻市白浜区。工学院大学の企画で、海に見える高台に建設されました。県産木材を使用して地元の職人さんの手で建てられた家は快適な雰囲気でした。1人用と2人用合わせて10棟の住宅と、集会所のように使うことのできる大きな家が1軒あります。今後は、村づくりNPOりあすの森の支援を受け、ワークショップをおこなう予定。若い人がここに宿泊しながら漁業・農業の体験をおこなう、という計画もあります。これまで築いたつながりが続いていくことを願っていらっしました。

（マーレン・ゴツィック）

復興てらこ屋レポート

2. 志津川中学 仮設

4月19日（木）のてらこ屋では、中越の稲垣さんが、様々な復興公営住宅事例を紹介されました。それを受けて、参加された住民の皆さんでそれぞれの思いを出し合いました。

◎中越からのヒント アドバイス ～稲垣さんより

中越の復興公営住宅は、集落の状況や人に合わせて様々な形の住居をきめ細かく作りました。木造の2戸一（住居2軒で一つの家のようにつくること）で前に畑があったり。（写真を見て、会場からどよめき…）公営住宅＝アパートを想像しがちですが、山古志の暮らしを考えるとちがうねと、2戸一になりました。他にも6軒が連なった1人住まい用の長屋型のものは、2階建てで前に畑と縁側があり、縁側でお茶のみしたり、隣にある直売所を手伝ったりしています。こういう形の復興公営住宅は、中越が初めてだと思いますが、

焦らず、話し合いを重ねて
納得しながら進めよう！

みなさんの工夫で、まちづくりを進めていってほしいと思います。中越でも結果的にまちづくりをゆっくりやってよかったと思っています。3年かかりました。

高台移転は一つのステップ。たとえば小高地区では、元集落で移転しましたが、場所が変わると雰囲気も変わってしまい最初は心がばらばらでした。鎮守様を移動し、桜を移し、運動会を復活させ…具体的なことを共同していく中で、ふたたびつながりができました。移転がゴール

復興のまちづくりは、3つの主体「南三陸町＝制度を作ったり運用するプロ」「コンサルタント＝絵を描くプロ」「住民＝暮らしのプロ・まちのプロ」が関わっていないと絶対に良い町ができないので、一体となって動くことが大切です。中越でも震災前は行政任せだったので、なかなかそれができなかったのですが、自分たちのまちは自分たちで作らなきゃと思い、話し合いを繰り返して行政とやりとりしてまちづくりが進みました。しかし、そこには潤滑油が必要で、それが復興まちづくり推進員の方やNPOなどの支援者です。ぜひがんばって！

住民・行政・専門家が
一体となってまちづくりに
取り組もう！

能登半島地震、長野北部地震の栄村でも、こういう住宅が検討されています。ですから、ここに合った住宅を検討し、住みたいと思える公営住宅を作ってください。

中越では従来のコミュニティをなるべく切り離さないことを最優先に考え、要望があれば1つずつ住宅を作っていました。川口地区の住宅は高床式で2戸一。ここは集団移転をした地区で、自力再建が難しい方は公営住宅を地区内につくりました。入谷のような山間地で地震が起きたので、山崩れしたためにまち場に出てきて集合住宅に住む人もいましたが、「病院が近くて便利だけど、畑がない」と、元々いた土地に畑をしに行ったりしていました。なるべく元の生活を取り戻せることは大切です。3階建ての羊かん型の建物が公営住宅とは限らないのです。今、町が作っている絵はまだ変更できます。住民の声で変えていくことが南三陸町でもできるはずですよ。

中越の復興公営住宅は
風土に合わせた様々な形

状況が違いますが中越と阪神淡路の経験の合わせ技と

と思われがちですが、そこからが長いのです。どうかみなさんも急がずに議論しながら進めてください。そして町役場を味方にして下さい。みんなまちをよくしたいと思っている仲間です。不満のある時には、こういうところで話をして発散して下さい。

また、今の暮らしやここでの人間関係を大切にしてください。それが次につながっていきます。具体的な動きから新しいことが始まったりするので、立ち止まらずやりながら考えることが大切です。

中越と違い、地区がバラバラになってしまっすぎて大変だと思いますが、一緒に話をしていくことが一番大切。皆さん頑張ってください。



◎復興まちづくり 推進員の目

中越の復興住宅を 見学しての感想

中越の復興住宅は、1000～1200万円で木造の環境に配慮した住宅でした。中越では雪が多いのでコンクリートで高床にしたり、吹抜けがあって空気の入れ替えができたりするようつくりをしたり。居住空間が広く感じられ、年をとってもこういう住まいならいいなと思えるようなものでした。1階だけ造作して、若い人が帰ってきたら上も造作するなど、柔軟な考えでやっていました。

こちらでは、住宅メーカーの作ったモデルハウスの見学が始まっていますが、坪70万ということでみんながっかり。町でも県でも補助を出

すことを考えているので、安くして快適で南三陸にあったものを作りたいものです。南三陸のモデル住宅は1200万～1500万（設計費無料）南三陸杉は良質なので、それを使って復興住宅をつくれば、地場の林業振興にも仕事づくりになり、安くできます。ローンの利子も補給されるようです。山古志だと、900万円の持ち出しで、茶の間に光も入るようなとてもいい住宅ができていました。コンサルタントの方も「みなさんから意見を出してもらって、それを反映したい」と言っているので、是非考えましょう。

昔の人の知恵を活かした まちづくりを考えよう

志津川の海の風景もずいぶん変わりました。袖浜の海水浴場ができたのもずいぶん最近の話。我々は震災後を生きているのではなく、震災と震災の間を生きているのです。神社や縄文貝塚の跡は残っていると、歴史から学ぶことは多い。伊里前も、江戸時代までは海。五日町、十日町も海を埋めた町。平地に住居を構えてはいけななかで、高台に住むというのはどういう

ことなのか、住んでいる人たちの自然との関係、人間関係が大切だという視点が必要。前回のてらこ屋の後に、古い五日町では動きが始まりました。新井田は残ったのが14～15世帯。元々168世帯あったうち、呼びかけに対して返事があったのは91世帯。29世帯は宛てどころなし。40世帯は返事無し。これからの移転について来週意見交換する予定です。生活を支える人が働きに出ていて時間がないと思いますが、誰かが先頭にたってほしい。コンサルタントも支援も増えて住民の話を聞けるようになってきたようです。



中瀬町仮設「継続的に住み続けるために」



中瀬町仮設住宅では、どこにどのように住むことがゼロからの解決策か、地図や航空写真などをテーブルにおいて、皆さんいつも熱心に議論しています。希望の移転候補地を歩いて見地し、子孫に何が残せるか、地域の高齢社会をどう支えるか、医職住の関係、若い世代が継続的に住み続けられるか、まちの施設との関係、かつての風土は・・・など中長期的な多様な「Q」を真摯に考えています。

（渡邊喜代美）

2. のつづき

志津川中学
仮設

復興てらこ屋に
参加された
住民の方に
意見をうかがいました。



●元の集落の関係をつなぐ

- ・自分の地区のうち、ここの仮設にいるのは5軒。十日町の会長の呼びかけで、観洋に集まったのが160人。懐かしかった。500～1,000円出し合って、毎年会おうということになった。住所録も作って、みんなでつなぎましょうということになった。

→（稲垣）中越でも、元いた集落1軒1軒に桜の木を植えて花見をした。「ここにうちがあったんだよ」と孫に伝えるために。出て行ったからといってそのままにしないで、個人の選択を認め合う。「出て行ったけど、昔付き合った仲間だから」と。

→今度花見するんですよ。

→（稲垣）僕たちも夏になるとBBQした。お茶だと男の人来ないから。

●つぶやき…

- ・小さくてもいいから戸建てがいい。
- ・不安になる。お金のことが原因。
→お茶っ子を飲みながら話せるといいね。
- ・息子が高校の仮設にいる。気持ちは曇りガラス、でもみんなとお茶して楽しい。
- ・帰る実家もないし、兄弟もない。
それが辛い。
- ・久しぶりに同級生に会えてうれしい。
- ・足腰が弱っていたので、先が見えないのが不安だった。

●どこに公営住宅をつくるか？

- ・公営住宅を移転先に作ってほしいという声に対して、町が管理をすることになるので大変と言われるが集団移転のためには必要になってくる。
- ・小規模改良型住宅というのがあるが、高台移転の制度と組み合わせると複雑になるからやりたくないということがあるのではないか。
- ・自分たちの地区が一番はじめての移転になるだろうから、ほかの地区のモデルにもなってしまおうと思う。そういうことを気にしている。
→（稲垣）地区どうしの情報交換が大切。
- ・町は公営住宅について、経費がかかるしかかなり大変なので、アパート形式でやるつもりでいる。
- ・気仙沼では、3戸でも5戸でも復興住宅を作ろうとしている。声を出せばできる。
- ・移転先に復興公営住宅を作らないとコミュニティは保てない。
みんなで声をあげて、役場に伝えていく必要がある。
- ・移転先に復興公営住宅を作って空家になったらどうするんだというのが、役場の考え。
でも山古志では支援しているうちに住んでしまう学生もいた。ここに住みたいという町にすればいい。コミュニティも含め10年後どんな町にしたいかを考えて、他がうらやむような町にしていけることが大切。今は大変だけど、遠くに定めた目標に対して、じゃあ1年後は、2年後は…としていくのが大切。



●勉強会や視察の予算 を使える！？

- ・中越の住宅を見に、東北から見学も来ている。
→復興庁の気仙沼支所の人に来て聞いたが、交付金は視察にも勉強会にも使える。4200万円の予算があるのに、復興推進課も手がまわらずこれまで使えていなかった。
- ・放射能のことも専門家を読んで勉強会をしたいし、情報発信もしていきたい。

●話し合いが先行している 地区の状況

- ・寄木は46軒中36軒が流されてしまい、災害危険区域になったところもあるが、用地は契約山と民有地をもとに区画整理ということで「高台移転に参加する人たちはこういう用地がありますよ」とランドブレインに絵を描いてもらった。
- ・寄木や葦の浜の人は、元の土地は倉庫や作業場にして売らないと思う。

●集団移転について

- ・役場は復興住宅を数カ所にまとめたいと考えているが、各地区の意向はそれぞれある。
- ・わたしたちは地区の人といい関係を持ちたいし、そこに公営住宅を作ってほしいと思う。
- ・新井田という部落には、いつもなら波は来ない。45号線沿いで便利なところだった。代替地もどうなるか分からない。部落のみんなと高台移転したいと思っている。



●どんなまちをどうつくっていく？

- ・町にどうやって意見をぶつけたらいいのかわからない。個々にぶつけてもダメだと思う。まちづくり協議会という話もある。
- ・東京の多摩ニュータウンをのように、なりわいのない住宅団地は20年で地域のつながりはなくなってしまう。そんなまちは、老いていく時に楽しくない。
- ・障害児の活動では、「わたしたち抜きでわたしたちのことを決めないで」というのがテーマ。作る前からユニバーサルデザインを。コレクティブハウスの取組も勉強になる。
- ・町をつくるのは行政だと思うけど、意見を言うのは住民だと思う。何かあったら声をかけてほしい。
- ・さんさん館の裏でバイオマス発電（木を屑にして燃やして発電する）もやっている。薪ストーブもやっている。震災のとき、電池がなくて困った。こういう手段があるということも知ってほしい。



コモン・マ・しごと 支援ネットワークをご紹介します！

いつもご支援
ありがとうございます！

黒羽志寿子さんと

その仲間たち

針、糸、ミシン、カッター、キルトルーラー、カットマットなどの裁縫道具、多様な布の送り主は、キルトの達人黒羽志寿子さんとその全国の仲間たちです。その布や道具から次々とすてきな作品が生まれ始めています。

渡辺ようこそさん

帽子作家の渡辺さんからは、さまざまな素材の布をいただきました。個性豊かな布や触り心地のいい布は、刺し子コースターに生まれ変わっています！

中野清子さん

「くさっぱら公園」（東京都大田区）のお祭りで出会った中野さんは、着物地で洋服をつくれるデザイナーさん。素敵な着物を沢山お送りいただき、のれんに、着物ファッションショーにと、さまざまに使われています。

宮村佳子さん

子どもの靴や靴下・帽子などをデザイン・販売している宮村佳子さんは、ミシン糸、かわいい布、面白い布、紐、リボンなどを送っていただきました。小中学生にプレゼントするちいさな袋に生まれ変わりました。

篠田由美さん

音楽家などの衣装をつくらせてもらっている篠田由美さん。楽しい模様や鮮やかな色のいろいろな端布は、刺し子コースターに使われています。

下中菜穂さん 丹羽朋子さん

昔の日本文化を楽しめる本に仕立てて今に活かす提案をされている下中菜穂さんと、中国の農村女性の手仕事（切り紙や刺繍など）を現地調査し研究を進めている文化人類学者の丹羽朋子さんが1月に同行下さり、南三陸町に根づく暮らしの文化について女性たちの会話の中から掘り下げて下さいました。今後も、南三陸町に折に触れ出没されるそうです♪

CHC移動図書館 ペイントチームより



東日本大震災から、1年が過ぎた頃、まだ深く傷跡が残る街の中で、復興へと力強く歩き始めた人々の姿にわたしたちは深く感銘を受けました。図書館のみなさんから松原公園やまちの話を伺いながら、想いを込めてバスに絵を描きました。カラフルな色がちりばめられたバスが町中を走り、そのバスを見た人々の心がほんのり明るく色づくように、いつか復興したまちに笑顔が溢れるように。（初田雄一、小林更来紗）



暖かくなり、良い季節ですね。海がとても穏やかで綺麗です！うに楽しみ！（大橋）／まちづくりに向けての住民の十分な議論、粘り強く実現したいですね。頑張らしましょう。（狩野）／暮らしづくりのヒントになるようなニュースを目指していきます。よろしくをお願いします！（川上）／地元の人々が創造的に力強く復興へ向かっている姿は感動的です。応援したいと思います。（マーレン）／1年2ヶ月、心通う方々に出会い、ふるさとのようです。めかぶドンも山菜の味噌和えも最高です。（渡邊）

発行日：2012年5月17日
発行：NPOコレクティブハウジング社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1175
メール：info@chc.or.jp／電話：03-3315-0255
[CHC南三陸支援チーム]大橋徹平、狩野三枝、川上英里、マーレン・ゴツィック、渡邊喜代美

CHCでは、この活動のために以下の助成金をいただいています。

- 平成24年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業／[事業名]持続可能なコミュニティづくり支援事業
- 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業（第4次中長期活動）／[活動名]：仮設住宅や被災地域での孤立化を防ぎ、共に日常の暮らしを取り戻すための手仕事を柱にしたコミュニティの再構築の支援活動